ＡＦＰ　19.12.20　フランステレコム

従業員 35 人自殺、旧仏テレコムの モラハラ裁判　元 CEO らに禁錮刑

2019 年 12 月 20 日 21:44 発信地:パリ/フランス ［ フランス ヨーロッパ ］

パリの裁判所に到着した、仏通信大手フランステレコム（現オランジュ）の元最高経営責任者（CEO）、ディディエ・ロンバール被告（右、2019 年 12 月 20 日撮影）。(c)Lionel BONAVENTURE / AFP

【１２月２０日　ＡＦＰ】仏通信大手の旧フランステレコム（France Telecom、現オランジュ、Orange）で２００８～０９年に従業員３５人が相次いで自殺したモラルハラスメントをめぐる裁判で、首都パリの裁判所は２０日、当時の幹部らに禁錮刑と罰金刑を言い渡した。

最高経営責任者（ＣＥＯ）だったディディエ・ロンバール（Didier Lombard）被告に加え、当時の副ＣＥＯと人事部長には「組織的ハラスメント」の罪で、禁錮１年、罰金１万５０００ユーロ（約１８０万円）がそれぞれ科された。ただ刑期の８月分は、一時執行停止される。

またオランジュにも、罰金７万５０００ユーロ（約９１０万円）の支払いが命じられた。

ロンバール被告の弁護人は同日、上訴する方針を示した。

かつて国営だったフランステレコムの上層部が、従業員約５人に１人に当たる２万２０００人の解雇を含む大規模な再編計画に踏み切ったことを受けて、２００８～０９年に従業員３５人が相次いで自殺した。

この問題は、無情にも従業員の福利を犠牲にして利益追求を優先する企業上層部によるモラルハラスメントに対する規制を求める声につながった。(c)AFP